

政治略原

福岡第一師範學校
(學校圖書)

第	號
分類部	
冊	
分冊	
分冊	

T1A1

23

Ka 119

圖書 和圖書 遼



福岡教育大学蔵書

月正春未辛治明

瓊江何禮之譯述

政治略原

盈科齋藏版

自序

自序

春首學校放課消暑于寓居磁
瓶插梅一枝聽窗外之鶯聲
忽聞屐音蹙蹙然起而迎之乃
友以中盒夢得皮就席閑話夢
得顧案上稿本把而閱之曰客

4352

冬放課呂來問中俞問之業歟
予笑曰問中欲偷問而却招一
悵也讀書神倦則呼二三塾生
使之各言其所學時發問題呂
試之至治國安民之術諸生最
汲汲不知其倦予甚嘉其志乃

為取聯邦魚熊氏所著政治略
原使讀之而隨問譯之隨譯筆
之遂為此冊子而尺夢得曰此
美舉也子盍公諸世予曰魚熊
氏述此書也特為命井兒曹耳
故其父俚而不雅其味淡而不

腴況出於匆匆之拙譯者乎徒
足禍梨棗君其舍之夢得曰誠
然然而我邦商賈逐銖銖之末
而不通政治之要領今教化
因進洋學諸家譯政體法律等
之書刻本連出君子則擇而用

之入學者則受而閱之唯如彼
商賈常苦無易讀之書今如此
書實為彼輩開知般筏也使彼
輩開知亦報國之一事也刪正
之勞請任余予然其言遂托午
夢得今告刻成聊識其由十卷

首明治辛未首春念日瓊泛何
禮書千浪華天神橋南僑居時
走漢火船將發鐘聲響空



門人 藤井宣書

緒言

一 此書ハヲオルス、ブック、オス、シ、井ル、ゴウ
ルンメン「ト」稱シテ亞國ノ政學家ヨンゲ
氏ノ所著ニシテ即チ政學入門書ノ義ナリ
原本ハ紀元千八百六十八年ノ刊行ニ係ル
今姑ラク顔シテ政治略原ト云フ
一 全篇ヲ二大段ニ分ツ第一段ハ政學ノ原理
ヨリ共和政治ニ聯合スル諸邦ノ小政府ノ
軀裁ニ至ル第二段ハ乃チ全國大政ノ規模

ヲ論シテ幼年生徒ヲ啓牖スル者ナリ此書
ハ即チ其初段ノ一部ノミニシテ後段ニ至
リテハ更ニ上等ノ學生ヲ教授スル為メニ
同氏ノ所著ノゴウルメント、カラス、ブツ
クヲ抄譯シテ之ニ充タス蓋シ大政ノ規模
ノ如キハ其摠括スル所浩大ニシテ一邦ノ
小政府ノ比ニ非ス故ニ務メテ微細ヲ遺サ
ス者者ニ全豹ヲ窺ハシメノ為メナリ
亞米利加聯邦トハ三十餘邦合集シテ一大

宗ヲ為シ以テ全部ノ安寧ヲ保護シ其名ヲ
以テ外國ト交際スル摠稱ナリ一邦ノ礼樂
征伐ノ如キハ原ヨリ一個ノ政府有リテ之
ヲ施行シ他ニ服從セス自ラ全邦ノ政府ト
異レリ故ニ一邦ノ政府ヲ小政府ト稱シ其
政典ヲ邦憲ト稱シ全國ノ大政府及ヒ其國
憲ト混同スルヲ避ク夫レ邦ト云ヒ國ト云
ヒ字義ニ於テハ原ト互稱ニシテ判然ノ別
有ル可キ非レ共今假ニ別ヲ立テ大ヲ國ト

一
シ小ヲ邦トス看者怪ム勿レ

政學及ヒ律令ニ於テハ自ラ一科ノ熟語アリテ一々之ヲ通用ノ語ニ改メ難シ今盡ク其譯例ヲ示ス時ハ徒ニ煩ヲ増ス耳ナルカ故ニ譯語通シ難キ者ニハ細註ヲ加ヘ或ハ左訓ヲ附ス且序文ニ云ヘル如ク單ニ市井ノ童蒙ヲ啓牖スル小冊子ナレハ文詞ノ鄙俚ハ論スル迄モ無シ看者笑フ勿レ

譯者誌ス

政治略源目次

卷之上

政治大意

第一章 人民稟性

第二章 本權自由人民所行

第三章 法律 政府要務之事

第四章 政府體裁

小政府

第五章 國憲

第六章 代議士ヲ撰ム可キ人物

第七章 撰舉ノ法

第八章 立法廳一名議政官

第九章 立法廳會議之制

第十章 法律ヲ創立スル法

卷之下

第十一章 行法廳一名執政官總領副總領分

第十二章 執政ノ官屬

第十三章 州廳及其官吏

第十四章 邑廳及其官吏

第十五章 村會府會等

第十六章 司律廳一名裁判局

第十七章 會審ノ法トライアル

第十八章 邑衙ノ外諸法衙 大會審

小會審

第十九章 罪人ノ提審

第二十章 大小ノ罪科

第二十一章 教育

第廿二章 估稅收稅之法

目次畢

政治略源卷之上

政治ノ大意

瓊江 何禮之譯述

第一章 人民ノ縹緖

政治ヲ學フ者ハ人ノ原性ヲ知ラザル可ラス人ノ相集テ其國ヲ保ツハ皆天性ニ出ル者ニテ世ヲ治ルノ務ヲ捨テ其外ニ樂シキ事アル可キノ理無シ是ヲ人タル者ハ相交ルノ性ヲ具フト云若人々唯其一己ノ性ニ任シテ彼モ我モ獨立シ

テ相扶ケ相頼ム事無キ時ハ此世ニ生テ在ト云
而已ニテ所謂文明開化、利用厚生ノ道モ何者タ
ルヲ知ラス野生ノ禽獸ニ齊カル可シ實ニ人ハ
萬物ノ靈ニシテ天ヨリ厚キ恩惠ヲ賜ヒ此在テ
治ル者故本ヨリ彼我交通シテ思慮ヲ磨キ智識
ヲ廣メ相共ニ需要ヲ充タシ善キ者ハ賞ヲ得、惡
キ者ハ罪ヲ得ルノ方法モ自ラ生シ次第ニ其道
ヲ研求スルニ至レリ是ヲ人ハ獨立ス可シサル
性ヲ具フト云

然レ共一身ヲ營ミ妻子ヲ養ニ至テハ宜ク自ラ
勤勞シテ自ラ衣食ヲ求可シ徒ニ其天性ニ依頼
シテ他人ノ養ヲ仰ク可ラス斯ノ如キ者ハ天理
ニ背キ空ク人勞ヲ食ムト云フ天理ニ背キ人勞
ヲ食ム者多ケレハ自然ニ他人ノ勤勞ヲ折クニ
至ル試ミニ今各人ノ千辛萬苦シテ所獲ノ利益
ヲ衆ニ分チ齊ク彼ノ游惰衣食スル者ニモ及ス
時ハ誰カ能孜孜トシテ人ノ為メニ勞スル者ア
ランヤ逸ヲ喜ヒ勞ヲ厭フハ人情ノ常ナレハ勤

凡者モ後ニハ怠リ風俗日ニ頹レテ彼我齊シク窮乏ヲ俟ツヨリ他ナレ但シ困阨ヲ救ヒ危急ヲ助ルモ亦人ノ止事ヲ得サル道理ナレハ孤獨ヲ憐ミ病貧ヲ卹ムカ如キニ至テハ吝嗇ナラス其分ニ應シテ施ス可キ者ナリ

人タル者ハ自他ノ缺ヲ給シ事ノ是非ヲ辨シ即今日言行ノ正邪ハ明日ノ利害ト爲ル可キヲ察ス之ヲ人ハ思慮ノ性ヲ具フト云フ譬ヘハ勤儉ハ保家安身ノ良劑怠惰奢侈ハ其毒藥ニシテ善

惡禍福影響ノ如ク立トコロニ至ル事ハ田夫野人モ能ク知ル所也此本然ノ靈智昧カラサル力故二人ハ萬物ノ靈ト云モ理無キニ非ス

人心ハ人面ノ如ク各異ニシテ齊カラス君子アレハ小人有リ信義ノ士アレハ奸邪ノ徒アリ之ヲ人ハ善惡ノ性アル者ト云

前条述ル所ノ意ヲ簡易ニ云時ハ人ハ朋ヲ爲シ交ヲ結ヒテ各思慮ヲ具ヘ其性情均シカサル物ニシテ處立ノ道ヲ脩メテ交誼ヲ厚クスルハ

即天理ニ出ル者ナレハ廣ク交通シテ國會ヲ為スコソ自然ト稱ス可ケレ或ハ野蠻ノ有様ヲ指シテ天然ノ世ト稱センハ相反シタル論ト云フ可シ

國會トハ政學ノ科言ニシテ一政府ノ下ニ立チ一國ヲ為ス所ノ兆民ヲ指スナリ某社某會ト稱シテ有限ノ人員相集リ事業ヲ營ム者ト自ラ別アリ者混同ス可ラス

第二章 本權自由人民ノ所行

人民既ニ國會ヲ為スニ至レハ各一身ヲ經營スルノ責アリ然ル時ハ銘々或ハ心力ヲ勞シ或ハ金錢ヲ費シテ畜ヘタル物ハ皆其人ノ家産私有ト為ル自ラ之ヲ用ヒ之ヲ享ル天與ノ本權有テ他人之ヲ間然ス可ラス然リト雖モ滔滔タル天下皆力ヲ役シ心ヲ勞シテ此本權ヲ求ルカ故ニ一身ノ所望ヲ達シ或ハ缺乏ヲ充テント欲スルニ當テ謹シテ其本分ヲ守リ他人ノ權ヲ犯シテ人ヲ損シ已ヲ利スルノ咎ヲ蒙ル事勿レ

此權ハ天ヨリ賜フ所ノ重寶ニシテ一毫モ束縛
スル者ナク即天然ノ權ト稱ス而シテ其分ニ隨
ヒ此權ヲ相持テ妨害スル無ク天然ノ自由ト稱
ス法令ヲ壞リ惡行ヲ為シ忌憚ナキ者トハ霄壤
ノ殊別アリ

本權ト自由ノ二語ハ彷彿トシ異名同意ニ似ト
雖モ自ラ一義アリ譬ハ甲乙ノ二人アリ甲ハ弱
ク乙ハ強シ今甲ノ有物ヲ乙無理ニ奪フテ己カ
有ト為ス時ハ甲ハ己カ物ヲ有スル自由ヲ失フ

ト雖モ其物ヲ有ス可キ本權ハ依然トシテ甲ニ
存ス乙ハ之ヲ有スル自由有リト雖モ之ヲ有ス
ル本權ヲ持ツ事無シ

天下皆己カ本權ヲ持有シテ束縛セラレ、一無
ク而シテ彼我相交ルニ信誼ヲ以レ人ヲ損レ己
ヲ利スルノ弊ナキ時ハ人ハ皆善人、此ハ即太平
ニシテ家富ミ身榮ヘテ礼義文物ノ國土ト為ル
ナリ

經曰己ノ人ヲ遇スルハ猶人ヲレテ己ニ遇セシ

メント欲スルカ如クス可シ即人ヲ遇スル己ノ身ノ如クナル可シト去意ナリ旨アル我斯ノ言、天帝ノ睿智ヲ瞻ノミナラス亦其恩徳ヲ仰、ニ是レリ蓋常ニ是經言ヲ守レハ一身ノ榮福ヲ求メテ餘アリ之ヲ擴廣メテ他人ニ及スハ誰カ敢悦服セサシヤ

然レ共無教衆廢中ニハ更ニ信義ノ何物タルヲ知ラス他人ヲ傷害レ甚キハ竊盜、奸偽、毆殺、放火等至ラサル所無キアリ此惡行ヲ寬宥シテ懲戒

ノ術ヲ施サ、ル時ハ無父無君ノ無道ノ世ト為リテ人民手足ヲ措所ナキニ至ル可シ

第三章 法律 政府ノ要務ノ事

前條ノ惡情ヲ懲戒シテ暴行ヲ禁レ而シテ相交ルノ論理ヲ維持スルニハ政府ヲ設ケテ法律ヲ創方スルヲ以テ第一義トス法憲トハ萬民ノ言行ヲ脩正スル規則ニシテ國柄ヲ握ル權アル者之ヲ立定シテ人民ノ當然ニ務ム可キ義ヲ令シ非義ヲ禁スル條例也之ヲ國法ルムニシバ或ハ民

法シテ云ルト云

法憲ヲ執行スルニハ必刑罰無カル可ラス法アリテ罰ヲ設ケサレハ惡人法ノ恐ル可キヲ知ラス罰トハ法ヲ犯シタル者ニ施ス所ノ刑ヲ云フ辭ハ物ニ屬ス者ハ獄ニ繋キ人ヲ殺ス者ハ斬ニ處スト禁獄ハ即竊盜ノ罰斬ハ殺人ノ罰是也或曰若シ人皆性情ノ正シキヲ得ル時ハ言行能其度ニ中リテ所謂刑ヲ措クノ治ヲ為シテ政府ハ無用ノ物ニアラスヤ是其一ヲ知リテニヲ知

ラサル論也夫情慾ノ物ニ感シテ發スルニ當ツテハ正人君子ト稱セラル者ト雖モ一時ノ血氣ニ動カサレテ事ノ是非ヲ辨別スルニ違アラサルヲ有リ故ニ政府ハ常ニ法律ヲ立テ以テ某ノ行ヒハ義ニ屬シ某ノ行ヒハ非義ニ屬スル事ヲ覆明シテ國家ノ典型ト為サスル可ラス又曰立法ノ權アル者法律ヲ定ムル時ニ臨ンテ其私ニ引カレテ公平ヲ忘レ其方向ヲ錯リテ或ハ其人兇惡ニシテ怨ニ天道ニ悖リ法律ヲ立テ

萬民ニ號令レテ天道人法トハ自ラ別ナリトス
ル時ハ何ニ隨ヒ何ヲ守リテ百事其當ヲ得可ケ
ンヤ

所謂ル聖經ハ即チ天意ノ註解ナリ其言ニ曰人ヲ
畏ルハ天ヲ敬スルノ厚キニ如カスト故ニ知ル
人法ノ天道ニ悖ル者ハ法ト云フ可カラス天道
ニ悖ル法ニハ必シモ遵從スルヲ要セス抑人法
ニ違背スル時ハ必國ノ刑罰ヲ受ル者ナリ然レ共
人タル者無辜ノ罪ヲ甘シシテ上天ノ道ニ違ハ

サル時ハ實ニ正直ノ至極ニシテ天ニ對シテ能
其分ヲ盡スト言フ可シ

然レ共一向ニ前條ノ論ニ泥シデ人法ハ盡ク善
キ者ニ非ズトシテ之ヲ犯シテ妨ケ無シト思フ
可ラス素ヨリ法律ハ天意ニ本キ至當至平ナル
ヘキ者ナレ共必絲毫モ瑕疵ナキ事能ハス時宜
ニ依テハ萬民ノ天然自然ノ本權ヲ束縛シテ自
由ナラシメサルヲ生スルアリ然レ共其弊未
タ甚著シク衆心ヲ害ス可キニ至ラサレハ尚ホ

法律ハ犯ス可ラサル者ト見ル是亦人民ノ本分
ナリ若一箇ノ不便アルカ為メニ忽チ法律ヲ蔑
視シテ容易ニカユ可キ者トセハ地上更ニ謹守
ス可キ法律アル事無ク紀綱モ地ニ墜チテ無政
ノ邦ト爲ル可シ是處ハ執法ノ人モ其法ニ御セ
シキヲ得可シ是皆上タル者ノ其法ヲ
用ニルニ拙ニヨルヲナリト知ル可シ
人民繁息シテ康福多財ナシメシニハ良法ヲ
設クルニ如クハナシ其良法トハ才徳有ル人上
位ニ在ルニ如クハナシ其才徳アル人ノ出ルヲ

期スルニハ先盛ニ學校ヲ興シテ年少ノ者ヲシ
テ風ク知識ヲ廣メ其行狀ヲ正クシ政治學ヲ研
究シテ經濟ノ要理ヲ知ラシムルニ在リ

第四章 政府ノ軀裁

政府ヲ設クル本意ハ國ノ安寧ヲ保チ人民ノ幸
福ヲ進ムルノ外ナラス既關ケタル邦ニハ必ス一
定ノ政府無カル可ラス然レ共國々風俗各殊ナ
ルニ從テ政府ノ軀裁モ自ラ一樣ナルヲ能ハス政
府ノ體裁ヲオルハ、オスゴトハ何ソヤ一國ノ人

民ヲ治ムル綱領ヲ指スナリ

政府ノ軀裁至美ニシテ弊無キ者トハ制度苛酷
ナラスレテ所謂人民天然ノ權ヲ自由ニシテ些
少ノ故障有ル事ナク其性ニ從テ其志ヲ成シ各
造化ヲ助クルノ極ヲ云ナリ而シテ人民此自由
ナル通義ヲ得タルノ多少ハ國政ヲ握ル者其人
ヲ得ルト然ザルトニ依テ相違アリ此權ヲ執ル
者ヲ君權ソウエリ或ハ無上ノ權シユプリト
稱シテ即チ政ヲ執リ國內ニ號令スルノ威權ヲ

指スナリ

立君キナトハ政府ノ一体ニシテ無上ノ權常

ニ帝王ト稱スル一人ノ手ニ在リ立君獨裁ソア

ナルキトハ萬機帝王ノ一心ニ出テ或ハ特命

ノ宰輔ニ決レテ億兆ノ生殺與奪擬テ其喜怒ニ

出テ君主ノ意思即チ國法ト成ルヲ云フ此政府

一名ヲ霸政デスト稱ス立君ト云ヒ霸政ト云

ヒ原語ハ一人ニテ政府ヲ掌トルノ義ナリ

立君定律リミツトハ一人ノ君主位ニ在

レ共萬機悉ク其意ニ出テサレテ去フ即英國ノ
政躰是ナリ此政府ニテ法律ヲ立ルニハ集議院
アリ之ヲ制論シ君主ハ其議ヲ折衷レテ去取ヲ
定ルノミニテ獨裁スルヲ能ハス集議院ハ上下
ノ兩局有リテ上局ヲハオス、オス、清華院ト稱シ下
局ヲユム、ム、衆庶院ト稱ス歐洲ノ諸邦十二
八九ハ立律ノ政躰ナリ

貴族合議クアリトストハ國中ノ權門豪族集會シ
テ國政ヲ執行スルヲ去フ當時現ニ此爰休ヲ存

用スル國無シ唯歐洲諸邦議政官中ノ一局ニ其
遺風ヲ存スルノミ英國集議院ノ上局即是ナリ
貴族ハ其門地ニ依リテ公候ノ人爵ヲ襲ヒ或ハ
君主ノ寵眷ヲ蒙リ之ニ叙スル者ナリ

民主政治デモクトハ人民會集シテ國ヲ治ムル
者ニテ天下ハ一人ノ天下ニアラサル趣意ヲ本
トスル也全ク此趣意ニ原ク時ハ則チ億兆ノ人
集リテ一躰ト為リ自己ニ法律ヲ立ルハ事實
行レス却テ混亂ヲ生シテ害ヲ生スル事アリ

我國ノ政躰ハ外容ハ民主ナリト雖モ其意ヲ取
リテ全ク其形ニ泥ムコト無シ故ニ法ヲ定メ政
ヲ施スカ為ニ人民盡ク集會スル事無ク億兆中
ヨリ一定ノ人員ヲ拔選シテ之ニ國務ヲ議行セ
シム斯ノ如ク億兆ニ代リテ事ヲ議スル者ヲ代
議士レプレセント云乃其人ヲ選舉シタル人民
ニ代リテ其欲スル所ヲ計議スル義ナリ故ニ我
政躰ハ共和レプツト名ク
又我カ政躰ヲ民主ノ治ト稱シテモ名實齟齬ス

ルヲ無カル可シ其故ハ第一人民親カラ樞機ノ
威權ヲ握リテ政府ノ躰裁ヲ創定ス可キカアリ
第二代議士所有ノ權ハ其源皆人民ノ心中ニ出
サルハ無シ然ラハ則チ我カ政府ハ代議ノ民主
政治或ハ民主ノ共和政治ト稱シテ可也
小政府亞米利加聯邦ハ三十餘ノ自主邦ヨ
リ成リ邦内ノ政ハ其自主ニ任ス之
ヲ小政府ト云フ全國ノ大事ニ至リ
テハ諸邦合議シテ執行ス之ヲ全國
ト云フ
第五章 國憲

我邦ノ政躰ヲ典籍ニ載セテ昭明ナル者ヲ邦憲ト云フ邦憲ハ始メ人民造意シテ創立シタル者ナレハ之ヲ人民ノ公力ト稱スル共諛言ニ非ス蓋億兆ノ通義ヲ達シ殊典ヲ守ツテ相觸ルノ患ヒ無キハ斯ノ如キ政躰ニ如クハ無シ萬國ノ人民盡ク己力所撰ノ政府ノ下ニ住ム者ト思フ可ラス此ハ自ラ是我國民殊典ノ一ナリ

邦憲ハ盟書ノ類ナリ譬ヘハ今甲乙ノ兩人有テ重大ノ事務ヲ定ムル時ニハ雙方ノ約束ヲ券ニ

テカク

載セテ彼此相共ニ守ル可キ義分ヲ正ス我邦憲ハ即チ此盟約ヲ擴メタル者ニテ最初政府ヲ設クル時ニ當ツテ人民商議シテ以後政ヲ為ス可キ一定ノ綱領ヲ冊籍ニ載セタル者也

既ニ法律ハ國民言行ノ規則ナリト説リ然ラハ則チ邦憲モ亦一種ノ法律ニ属スルヤ曰然然レ共民法國法杯トハ自ラ別アリ民法國法ハ代議士ノ定ムル所ノ者邦憲ニ至テハ億兆自然ノ公撰ニ出テ國內萬法ノ宗ト為ル故ニ之ヲ稱シテ

亦根本ノ律フンダメンタルト云フ
邦憲ハ亦為政ノ紀綱ト稱シテ猶家室ヲ經營スル
柱礎ノ如シ一家ヲ全成スルハ椽桷ヲ彫シ棟梁
ニ盡キ唯柱礎アレハ足リトセス然レ共造作ノ
結構ハ柱礎其宜ヲ得サル時ハ名匠巧手モ彫畫
ノ美ヲ施ス處無シ然レハ邦憲ハ即チ政府ノ柱
礎ニシテ律令格式之ヨリ生ス苟椽桷柱礎ニ合
セサレハ動搖ノ憂ヲ免レス
邦憲ハ世守ノ成規ニテ時々改革スルコト無ク

僅カ數紙ニテ大體ヲ載スニ足ル法律ニ至テハ
然ラス時ヲ計リ事ヲ察テ毎々新令ヲ設ケ漸々
增多シテ今日諸邦ノ典籍ヲ集メハ殆ト牛馬ヲ
汗スルニ至ラン
又邦憲ヲ定ムル法ト法律ヲ設クル者ト區別有
リ萬民集會シテ政躰ヲ定ムル者ヲ大會議ウニオン
ヨリト稱シ各州ノ公撰ヨリ出テ來議スル者ヲ
委員トリゲト稱シ大會議ハ政府ノ模範ヲ定メ
邦憲ニ依テ條約ヲ立ルヲ以テ其職ト為ス

大會議ニ於テ議定シタル政府ノ模範ト雖モ未
タ人民ノ允諾ヲ得サレハ邦憲ト為ス可ラス其
稿案一定シタル上ハ直ニ人民ヲ會集シテ可否
ヲ言ハシメ果シテ可ト為ル者否ト為ル者ヨリ
數多ナル時ハ始メテ邦憲ト為ル而シテ國民總
體ノ定ムル所ニ出ル故ニ之ヲ全國ノ政典ト稱
ス

邦憲ニハ代議士ヲ撰舉ス可キ人物并ニ立法官
ノ廢置法律ノ創立為政ノ官吏ヲ詮撰スル法則

等ニ付テ而シテ其職ヲ定メ權威ヲ限ルカ如キ
要領ヲ載セタリ

第六章 代議士ヲ撰ム可キ人物

民主政治ヲ設クルニ就テハ何人ヲ指テ特ニ人
民ト目ス可キヤヲ限定スル事第一ノ要旨ナリ
茲上ノ俗言ヲ用ユレハ長幼男女ヲ論セス冠ヲ
戴キ履ヲ穿ツ者ハ盡ク人民ニ非ザルハ無レ政
學ノ科言ニ於テハ然ラス國政ニ周旋スル者ノ
ミヲ人民ト稱シテ即チ代議士ヲ選舉スル者ヲ

舉ニ從事ス紐邦ニ於テハ鷹銀二百五十圓ノ地面ヲ永代所持スルニ非レハ此ニ關カルノ權無レ自餘ノ諸邦ニ於テモ人民黑白ノ別無ク諸民一般ニ撰舉ノ權ニ關カル様ニ邦憲ニ於テ宜キヲ得ント盡カスル處アリト聞ク、サスレハ追々分別無ク平等ノ處置ニ至ルナラン
代議士ヲ撰ム權ヲソツフレート云フ發言ノ義ナリ免許チラゾトハ人民ノ此權ニ關カル者ヲ指ス故ニ發言ノ權有ル者ヲ撰舉ノ免許ト呼

ヒ國民選舉義ニ付テ論定スルノ免許ヲ得タリト云フ

法ヲ犯シ罪ヲ得タル國民ハ發言ノ權ヲ奪ハル然レ共其罪限禁獄ノ如キ者撰舉アルノ日迄ニ終ル時ハ其邦ノ紗領ヨリ再ヒ之ヲ任ニ復スルコトナレリ

人民發言シテ代議士ヲ撰ムハ政務ノ權カトリハ有リト云フ政務ノ權ト吏務ノ權パオトハ最モ別アリ政務ノ權トハ國ヲ治ル所ノ億

正明
兆合躰レテ執リ行フ者ニテ專ラ邦憲ヲ定メ立
法官ヲ撰ムノ二事ニ用ユ吏務ノ權トハ法律ヲ
奉行レ政治ヲ修理スル者ニテ即チ在官ノ人某
ノ事ヲ裁判レ某ノ訟ヲ聽斷スル類ヲ云フ也

第七章 撰舉ノ法

邦内ニテ代議士其外官吏ヲ撰舉ス可キ權利有
ル者毎年支配中ノ諸邑ニ會集レテ適當ト思フ
人物ヲ撰ムナリ但レ邑ノ官吏ハ春月其他ノ官
吏ハ九月十月ノ間ニ邦會ニ於テ之ヲ公舉ス

撰舉ハ專ラ其事ヲ司ル官吏有リテ之ヲ奉行ス
乃チ撰司^{エレユツジ}オス或ハ撰監^{ハイン}オス^{エレク}
ハヨ是ナリ其職ハ不法不正ノ事ヲ制レ撰舉ヲ
監察ス書記二人之力助役タリ

書記ニ於テ兼テ帳簿ヲ作リテ一々發言スル人
人ノ姓名ヲ録レ置キ其期日ニ至リ役々出席レ
テ手數整フ時ハ則チ撰監衆人一對レテ高聲ニ
撰舉ヲ始ム可レト呼ハリ而レテ衆人ヨリ出ス
所ノ舉票ヲ集ルナリ此票ニ乃チ各人撰舉セン

ト欲スル者ノ姓名ヲ記ス

投票故障無ク畢レハ各人ノ舉票ヲ匣ニ收メテ
投票相濟シ而レテ票匣ヲ開キテ其數ヲ點檢ス
舉票ノ數ト姓名録ノ人實ト符合シテ過不足ナ
キ時ハ則チ各人ノ發言ト姓名ノ記錄ニ失錯無
ク投票ノ法式全備ス乃チ票數至多ノ人物ヲ拔
キテ舉人ト為シ其職ニ就カシムルナリ

州官ヲ撰ム時ニハ邑會ノ舉票ヲ州ノ監官ニ申
報ス州ノ監官ハ其支配ノ諸邑ヨリ舉票來揃ヒ

タルヲ待テ後ニ之ヲ開ク邦官ヲ舉ル時ニハ邦
ノ監ニ於テ其支配ノ諸州ヨリ來揃ヒタルヲ待
テ之ヲ開クヲ常例トス

投票ノ票數ヲ以テ舉人ヲ定ムルニハ高數ヲハ
チヲ用ユル事有リ倍數リチヨチ用ユルヲ有リ
諸邦ニ於テ同レカラス高數トハ舉人中毎一名
ニ比スレハ第一ノ多數ナレ共通計シテ較レハ
歎セサルヲ云フ譬ヘハ甲乙丙ノ三舉人合セテ
六百枚ノ舉票ヲ得タリ其中甲ハ二百五十枚乙

ハ二百枚丙ハ百五十枚ト為ル乃チ甲ノ數ヲ乙
丙每人ニ比スレハ乙ヨリ多キ事五十枚丙ヨリ
多キ事百枚ナレ共乙丙ノ兩數ヲ合計スレハ三
百五十枚ト為リテ一百枚ノ不足ヲ生ス之ヲ稱
シテ高數ト云フ倍數トハ六百枚ノ票中ニ一名
ニ三百枚以上有ル者ニテ即チ乙丙ニ倍スル者
ヲ云フ

第八章 立法廳一名議政官

諸邦ノ小政府ハ其邦ノ憲法ニ随ツテ各三廳ニ

分ル立法行法司法是ナリ而シテ立法廳ヲ上下
ノ兩局ニ分ツ上局ヲ元老院ト云ヒ下局ヲ代議
院ト云フ

下局ハ邦内各州ノ人口ニ比例シテ二三名ヲ撰
舉シ其數常ニ多ク上局ノ三四倍ニ至ルヲ有リ
上局ハ然ラス其數常ニ少ク二三州相合シテ一
名ヲ舉ル所アリ

州郡ノ人口遽カニ繁昌スル所有リ然ル時ハ上
下兩局ノ員數ヲ増シテ其州郡ノ民口ト相當ノ

割合タラレメサルヲ得ス此故ニ邦憲ニ明文アリテ五年乃至十年ニ一度州郡ノ戸籍ヲ細檢シ多少ヲ計量シテ議貢ヲ増減ス之ヲ檢口テレギニスノ法ト云フ

而局ノ議貢タル可キ人物ヲ撰ム規則ハ詳ニ邦憲ニ載セタリ或邦ニ於テハ他人ヲ撰ム權アル者ハ已モ亦他人ノ撰ヲ得ルヲ有リ又或邦ニ於テハ已レ舉人ト爲ルニハ他人ヲ撰ム時ヨリモ年齡相長シ住居久レキヲ要スルヲ有リ大抵下

局ニ入ル年齡ハ上局ヨリモ少クニテ可也在官ノ期限ハ兩局毎年ニ交代スル有リ或ハ下局ハ一年上局ハ二年以上勤仕スルアリテ諸邦一樣ナラス若亦在官中ニ死シ或ハ罷ラレテ職貧缺ヲ生スル時ハ他人ヲ舉ケ其期限マテ之ヲ補フ

第九章 立法廳會議ノ制

各邦ノ立法官各其邦憲ニ從ヒテ毎年或ハ隔年ニ集會シ以テ樞要ノ法律ヲ創立シ民ヲ治ムル

正シ田シ
大議ヲ盡ス會議ノ地ハ常ニ政府アリテ百官備
ル所ノ邦都ニ定メ置テ遷徙スル事無シ立法官
ノ會スル所ヲ政廳ト稱シ規模宏壯ニシテ萬民
ニ昭示ス

議實相會スル時ハ各局室ヲ別ニシテ議事ヲ始
ル前ニ必ス忠ヲ盡シテ國ニ報ス可キ旨ヲ各員
誓約シ訖リテ各局執事ヲ撰ム副紡領ヲ立ザル
邦ニ於テハ議員中ノ一人ヲ推シテ議長クスル
ト為ス議長ノ職ハ局中ノ規律ヲ守リテ不正ノ

榮事ヲ監察シ而シテ發言ス可キ議案有ル時ハ
衆人ニ示シテ可否ヲ言ハシム又副紡領ノ有ル
邦ニ於テハ副紡領ヲ以テ上局ノ會頭^{テブ}ニ
立テ議長ヲ撰ム^フ無シ若死去或ハ免職シテ會
頭ノ職缺ル時ハ議員中ヨリ一人ヲ舉テ之ヲ補
フ之ヲ權會頭^ブレ^レデ^レント^トト稱ス

其外典記アリテ議事ノ始末ヲ騰録シ又警戒ヲ
掌ル士官有ツテ法ヲ犯ス者ヲ捕ヘ且缺席ノ議
員ヲ催促ス監門ノ士有リテ其出入ノ濫妄ヲ禁

此ノ如キ官吏ハ局中ノ所撰ニ條ルト雖モ議
眞ヲ以テ之^ニ許サス右官吏ヲ設ケテ會議ノ體
裁始メテ備リ直ニ議事ニ進ム
立法官ハ盡ク集會シテ常ニ缺員無キヲ能ハス
故ニ預メ法則ヲ立テ乃チ若干ノ人員出席シタ
ル上ハ必ス出揃フヲ俟タス事ヲ議シテ妨ケ無
シ之ヲ發議ノ期度^ルト云フ發議ノ期度ハ
總員ノ過半或ハ三分ノ二ト定ム

第十章 法律ヲ創立スル法

一條ノ法ヲ立ント欲スル時ハ其所擬ノ議案ニ
ト呼フ稿本ヲ會中ニ披露シテ之ヲ反覆討論シ
テ添削ス可キ所ハ朱黃ヲ加ヘ其同異ノ多少ニ
テ取捨ヲ定メ而シテ更ニ異論ナキ時ハ議長衆
ニ對シテ右議案採用ス可キヤト問フ若シ可ト
呼フ者過半ナレハ之ヲ用ヒ否ト呼フ者多ケレ
ハ之ヲ廢ス
可否正ニ相半シテ多寡ナキヲ平均ト云フ此
時ハ議長ノ一言ヲ以テ東西ヲ決ス若シ議長既

正
言
後
二
可
否
平
均
ヲ
持
ス
ル
時
ハ
同
異
相
發
言
シ
タ
ル
後
二
可
否
平
均
ヲ
持
ス
ル
時
ハ
同
異
相
抗
ス
ト
稱
シ
テ
議
案
ヲ
取
用
ス
ル
ト
無
シ
副
紗
領
會
頭
タ
リ
ト
モ
自
己
ノ
説
ヲ
述
ル
ヲ
許
サ
ス
可
否
相
半
ス
ル
ニ
於
テ
一
言
ヲ
發
ス
ル
ノ
ミ
ナ
リ
之
ヲ
決
議
ス
ル
ト
云
フ

此
局
ノ
議
案
既
ニ
評
決
ス
ル
時
ハ
彼
局
ニ
送
リ
テ
同
シ
順
序
ヲ
以
テ
評
論
シ
其
局
ニ
於
テ
改
正
ス
ル
所
有
レ
ハ
其
旨
ヲ
添
ヘ
テ
原
局
ニ
返
シ
原
局
ニ
テ
右
改
正
ノ
旨
ニ
異
議
ナ
キ
ヲ
表
ス
ル
迄
ハ
通
用
ノ
法
ト
為
サ
ス

ス

兩
局
既
ニ
同
意
シ
テ
異
論
無
シ
ト
雖
モ
紗
領
ニ
呈
シ
テ
其
可
否
ヲ
質
シ
允
准
ノ
手
記
ヲ
得
サ
レ
ハ
法
ト
為
ス
コ
ト
ヲ
得
ス
若
シ
紗
領
ニ
於
テ
異
論
アル
時
ハ
右
議
案
ニ
其
存
意
ヲ
附
シ
テ
原
局
ニ
還
シ
原
局
ニ
於
テ
右
存
意
ヲ
議
シ
而
シ
テ
前
議
ヲ
主
張
ス
ル
者
多
キ
時
ハ
更
ニ
兩
局
ニ
テ
可
否
ヲ
發
言
セ
レ
メ
可
者
ノ
數
再
ヒ
勝
レ
ハ
則
チ
紗
領
ノ
可
否
ス
ル
ニ
拘
ラ
ズ
法
ト
定
ム
ル
ナ
リ

然レ紗領ニテ異存有ル議案ヲ執行フニハ初メ
ニ議定シタル人眞ヨリ多數ノ同意アルヲ要ス
或邦ニ於テハ出席發言シタル人數ノ三分ノ二
ヨリ少カル可ラス或邦ニ於テハ出席ト缺席ヲ
論ヒス總員ノ一半ニ超ルヲ度トス又或邦ニ於
テハ一度而局議定ノ上ハ紗領ノ允諾ヲ乞ハサ
ル所モアリ

紗領議案ヲ承ルハ遲滯ナク可否ヲ判シテ一
定ノ期限ニ返却スルヲ要ス然ラサレバ時ハ立法

官期限ノ盡ル日ニ再度ノ評議ヲ經スレテ直ニ
法トシテ之ヲ行フナリ但シ右日限中ニ休會ア
ル時ハ此例ニ非ス

曰法ヲ立ルハ一局ニテ足り何ソ叮嚀斯ノ如キ
ヤ答曰一局ノ議定ニテハ未タ週カラサレバ所有
リテ無暇ト為シ難シ故ニ他局ヲ置キテ其遺ヲ
於ニ闕ヲ補ヒ以テ萬一ノ失ナキヲ要スル也
紗領ニ呈シテ檢校ヲ乞フハ何ノ意ソ曰而局ニ
於テ決スル所ノ議案ハ十全ノ如レト雖モ未タ

徹收無キヲ保チ難レ檢校ヲ乞フハ法ヲ重シス
ルノ極ナリ

立法官ニ於テ決スル所ノ法律ヲ議定トアリト云
議定トハ法律ヲ製シ議案ヲ改メテ法律ト定ル
義ナリ又法律ヲ條例ユトナト稱シ法律ノ書冊
ヲ典例ト稱ス

政治略源卷之上終

昭五、三、三〇 評價 五冊
二冊十冊也